



みんなが主役の地域づくり ～ふれあいサロンで、つながりづくり～

太子町は、近隣市町のベッドタウンとして子育て世帯が多い一方で、高齢化率が高まってきている。地域コミュニティのつながりの希薄化が懸念される中、太子町社協では、地域における助け合いの関係づくりに向けて、自治会域での「ふれあいサロン」をはじめとした、小地域福祉活動を積極的に支援している。

「みんなが楽しめる活動」を支援

同町では、ほとんどの自治会で「ふれあいサロン」が取り組まれている。歩いて通える距離の公民館等を拠点として地域の状況に応じた多様な活動が展開されている。担い手も地域によって異なり、自治会役員や老人クラブのメンバー、民生委員・児童委員などさまざまである。

町社協では、約20年前から職員が地域を回って小地域福祉活動の推進を呼び掛けながら、住民の自発性を尊重した支援を展開してきた。毎年、サロンスタッフを対象とした「ふれあいサロン活動研修会」を開催するほか、「ふれあいサロンのすすめ」を発行している。研修会では、サロン運営の基礎知識に加え、各地域で取り組まれている活動を一覧にして掲載しており、他の地域の活動を参考にできるように工夫されている。また、レクリエーション用品の貸し出しのほか、ふれあいサロン協力ボランティアや町の出前講座の紹介など、みんなが楽しめる活動を自分達で選べるよう、多様な情報を提供している。



研修会の資料では
各サロンの
概要を紹介

誰もが主役の交流の場づくり

各サロンの活動内容は、地域によってさまざまで、会食型、レクリエーション型、体操教室型などがあるが、住民同士で気軽に集える交流の場づくりが基本となる。

例えば、老人会、子ども会、自治会の三世代が集まるサロンでは、椅子に座ったままでできる遊びなどをみんなで行い、子ども達が全身を使って挑戦する様子を見て、年齢の垣根を超えた笑い声に会場が包まれる。また別の地域では、毎回「いきいき百歳体操」の後にサロンを行っているところもあり、健康づくりとレクリエーションとを組み合わせることで、多くの参加者が集まるようになったという。

町社協では、気軽な“お茶飲み”を基本に、「できる人ができることを楽しみながら」無理なく活動が継続できるよう、職員が定期的にサロンを訪問しながら、活動の側面的な支援を進めている。「支える・支えられる」の関係を越えた「みんなが主役」の地域づくりに向けて、今日もどこかでにぎやかにサロンが開催されている。



同町のサロンでは男性の参加者も目立つ

取材を終えて

「地域共生社会づくり」に向けた政策が進められる中で、身近な圏域でのサロンのような住民活動は今後ますます重要になってきます。住民に寄り添いながら、「福祉でまちづくり」を進める社協の役割に期待が高まります。

会長から 太子町社会福祉協議会 会長 釣田 孝三

太子町社協では、住民の支え合いによる「互助」を進めていくため、「みんなが主役 地域で支える福祉の和」を福祉目標に掲げ、小地域福祉活動、在宅福祉活動、まちの子育てひろば事業、障がい者福祉事業、介護保険事業などを展開しています。特に「ふれあいサロン」は、例年、自治会長やふれあいサロン協力者を対象とした研修会を開催するなど、住民主体による活動の支援に向け、社協の第1重点目標として力を入れております。

今後も、住み慣れた地域で安全安心に暮らせる地域づくりを住民と協働で実施しながら、信頼される社協活動を進めていきます。

